

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

戸別所得保証制度スタート

生産者が再生可能な仕組みが求められるが...?

農
天
転
換
の
年

納税の申告を終わって
所得を白色で申告してい
ますが、今年度は農機具
の減価償却の計算式が変
わって、それを理解する
のに相当時間を費やして
しまいました。

さて、皆さんは「暖冬」
だと言われた今年の冬の
感想はいかがですか。2
6年ぶりの大雪が降った
りして、気象予報ははず
れているのではないかと
言う声も聞かれます。気
象データは正しく見ませ
んが予想は正しかったの
ではないかという気がし
ています。

晴れた日には越冬した
ヒヨウモンチョウが飛び
回ったり、コシノコバイ
モや雪割草が例年にも増
して早くから花を咲かせ
ています。

以前から人間が作り、
計測している寒暖計の数
値と自然界の動植物が感
じる温度とは必ずしも同
じではないのではないかと

と、思っていました。です
から、桜前線の早晩や尾
瀬の水芭蕉の開花時期の
早い遅いのニョースには
関心をもっていました。
残念ながら、それを實際
の農作業の計画に役立て
る程ではありませんでし
た。

尾瀬と言えば一昨年の
夏、どうしてもニツコウ
キスゲが原を埋めつくし
ている様子を見たくて久
々に出かけました。C型
肝炎の治療でインターフ
エロンを投薬している最
終段階で、平地を3歩歩
いても息が切れるような
状態でしたが、家族が止
めるのも聞かず何として
も行くというので、妻と
若い女性の看護師さんの
3人連れという珍道中に
なっていました。

ところどころ探せどもニツ
コウキスゲはポツン、ポ
ツンとしか見当たりませ
ん。泊った山小屋で聞く
と熊が鹿に薔を食べられ
たか、晩霜でやられてし
まったのではないかと
ことでした。奥只見湖か
ら船で入って尾瀬沼・尾
瀬ヶ原・三条の滝と回っ
て同じところに戻る一泊
あり、それなりに距離も

コースです。結局、付き
添いの二人はそれぞれ膝
を痛め、息はきらしてい
ましたが元氣(?)だった
のは私だけでした。

先日、NHKの尾瀬写
真展を見ましたが、昨年
のニツコウキスゲは尾瀬
ヶ原一面に満開だったよ
うです。

さて、今年度から導入
される「戸別所得保証制
度」をめぐって県内では
喧々諤々のようです。

農家から質問が相次ぐ
中で、JA職員にもキチ
ンと回答できるだけの情
報がはいっておらず、対
応に苦慮して水稻生産実
施計画書の農家への配布
ができていないところも
あるようです。

小規模農家の多くの選
択肢は比較的単純でしょ
う。一律に反一万五千元
の定額交付が受けられる
なら生産調整(減反)に参
加することには迷いはな
い。とりあえずは従来ど
おり「調整水田」の減反
カウントの見込みであり
加工用米の減少分を飼料
用米に転換することにも
JAによっては飼料用品
種ではなく、加工用米と
同じ品種の作付けを指定
している所もある。問題は飼

料用米が今のところ面積
申告だけで出荷量とリン
クしていないので、今後
実収入以上の反収換算で
出荷数量が決定されてし
まうようなことでは困る
と言うことでしょうか。ま
た、すでに飼料用価格は
*20円程度と言われて
います。今後は、条件が
悪く生産性の低い調整水
田などをどうするのが課
題になるでしょう。

一方、大規模専業農家
の皆さんにとつて一番の
問題は、今後の米価水準
の動向ではないでしょうか。
か。残念ながら消費量の
停滞減少で供給過剰基調
は続き、価格の向上や維
持は期待できそうにあり
ません。単価の高い米作
りにも限界があり、食用
以外の米や他の作物への
転換を検討せざるを得ま
せんが、一部でおこなわ
れていた従来の「捨て作
り」は今後通用しないで
しょう。そこで問題にな
るのは基本中の基本であ
る「適地適産」です。い
かなる技術を駆使しても
自然条件を超えることは
できません。全国一律の
助成制度にも問題があり
ます。

それにしても、同じ米
でありながら食用米・加



2/18
品質管理講習会
を行いました
米情勢法令の改正・害虫
駆除について専門家から
の解説を受けました。

工米・米粉米・飼料米と
細分化され、別々に契約
・売り渡し、流通する複
雑な制度にこそ問題があ
るのではないかと疑問に
思うのは私だけでしょうか
か。食用の米価水準は維
持されても、農家にとつ
ては米価水準ではなくて
農業所得が問題なのです
から。
(内山常蔵記)

Agri-s の



農機メンテの部屋

Vol.5

さて、農機の修理も様々と出てきています。まずは、前にも書いたモミの出芽機のヒータートラブルです。水を入れてテストするとヒーターランプは点灯するが、実温度が15℃しか上昇しない。このままではそろった出芽が出来ないので、コントロール部を分解し確認した所サーミスタの不良と判りメーカーに部品発注しましたが、かなり年

二月中旬に積もった残雪も消えてきた今日この頃です。既に育苗の準備をされている方も多いかと思えます。我家の畑周辺に積もった雪も10cm程度になりました。田の土も見えてきました。

数経過していたため部品供給不可の回答。残念ながら新品の購入となりました。ちなみに発売から200〜25年経過した物はほとんど供給不可です。

次に種初めの播種機のトラブル。動作確認中、播種ローラー部よりガリガリ音発生。ローラー下の内部のプラスチックカバーの一部が変形摩擦している場合、種初めが均一に落下しない等のトラブルになります。この場合は部品交換して終了。育苗機ですが、昨年の4月20日から25日頃の低温等による出芽不良等で失敗された方が、今回の積雪残等で春先の温度不足を心配されて均一な出芽をしようとして育苗機の導入を検討されている方が増えているようです。中古等を探そうという方は早めの相談を！

肥料散布について 最近では肥料散布の方法も様様でトラクタ装着型のプロードキャスター、ライムソア。田植と同時作業の側条施肥等があり、それぞれ一長一短がありますが、今回はプロードキャスターの整備です。

密閉型ミツシヨンの構造の回転式のもの肥料の比重に左右されずに散布できる

フリッカー式の二種類があり、密閉型はシャッター以外はノーマンテなので取り扱いは楽です。まずは、シャッター部がサビ等で動きが悪い場合はオーバーホールがお勧めです。結構、ステンレス製のシャッターと受けが固着していたり、ガイドプレートを取り付けボルトなどが腐食して脱落寸前というものもあります。

さらにY社で、H20〜21年6月頃の製造で10馬力の小型機のトラクタのミツシヨンの不良で勝手に後進する。対象台数は、352台。さらに20馬力クラスのトラクタでは、ブレーキロットが締め付け不良で外れるものが880台。

追伸 最近、車関係でハイブリット車のリコール問題がユースをにぎわせていますが、農機関係も時々リコールが発表されています。まさに、最新のものが今月初旬に発表されたK社のH21

I社では、H17年5月〜18年6月製造の乗用管理機でミツシヨンの内部ギアの不良で走行不能になる恐れのある台数が39台。又、18馬力〜20馬力でハンドル系統で強度不足にて破損し操舵不能になる恐れのある台数が4千13台、H21年1月発表の37〜75馬力のトラクタで前車軸の強度不足で車軸の脱落の恐れがあるもの36台。等々、既にメーカーまたは販売店よりの連絡で既に作業が完了しているものもありますが、気になる方は、問

い合わせを。

追伸 農家数の減少で農機メーカーも厳しい経営環境との事で、山本製作所とサタケとが相互販売提携を結んだとの記事が出たのは、昨年の11月の事。それに伴い、サタケの開発したフルカラー色彩選別機(なんと5インチ初摺機対応、玄米、白米、もち米にも対応！今迄に無い低価格の2百38万円)が発売と共に予約殺到で、製造が間に合

ないとのこと。ちなみに県内で12月に20台程度納品されたようです。我家も除草剤の使用出来ないJAS有機栽培圃場において取り残したクサネムの種子等を除去する目的で予約しましたが、納入予定は夏過ぎ？

(Agri-s 記)

